



特集 | 次の5カ年を思い描いて きずなを紡ぐ市民のつどい開催

のぼりべつ 社協 だより

noboribetsu shakyo

登別東町第5町会主催のふれあい・いきいきサロンの様子です。
参加者みんなで笑いを交えた時事ネタの勉強や体操・脳トレで交流し、終始和やかな雰囲気でした。

CONTENTS

- P2,3 特集 次の5カ年を思い描いて
- P4,5 じぶんの町を良くするしくみ 赤い羽根共同募金
- P6 寄付金と会員会費が税額控除の対象になりました
寄付金一覧
- P7 きずなインフルエンサー・きずなのまちびと
- P8 災害に強い地域へ、日頃からのつながりと備えを



2022
09.01 No.157

[発行] 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
[事務局] 登別市片倉町6丁目9番地1 登別市総合福祉センターしんた21内
[TEL] 0143-88-0860
[FAX] 0143-88-4546
[mail] info@kizuna-shakyo.jp
[HP] https://kizuna-shakyo.jp
[Facebook] https://www.facebook.com/kizunashakyo/



この社協だよりの発行は、赤い羽根共同募金の支援を受けています

特集

次の5カ年を思い描いて きずなを紡ぐ市民のつどい開催

登別社協では、地域福祉活動に日頃から取り組む地域の方々に構成される「きずな推進委員会」を中心に、市民と共にこのまちの福祉をどのように進めていくかを具体的に定める「第4期登別市地域福祉実践計画（愛称きずな計画）」に基づき取り組みを推進しています。

7月4日、登別市民会館大ホールを会場に、市民一丸となって福祉でまちづくりを進めていくことを目指して、「きずなを紡ぐ市民のつどい」を開催しました。今回の特集では、その様子から今後の取り組みのポイントをお伝えします。

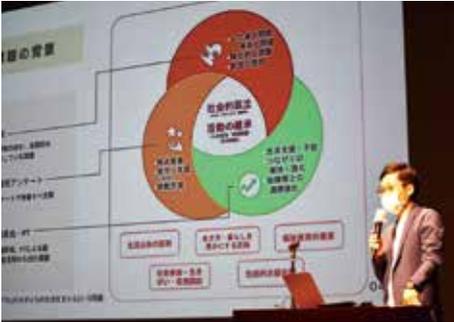
◆全市きずな計画

市内全域で取り組む内容である全市きずな計画について、社協事務局より報告しました。

地域福祉課長 坂本 大輔

第4期きずな計画は社会的孤立等の全国的な課題や地域の声を反映しながら作成した、誰もが支え合い暮らし続けられる共生社会の実現を目指すものです。

市民一人ひとりの暮らしを豊かなものにするため、皆さんと一緒に進んでいきたいと思えます。



地域福祉コーディネーター 太田 圭祐
福祉活動は、市民の声や地域の課題から生まれまします。それらをつなぐ基本となるのが、小地域ネットワーク活動です。活動を継続し、つながり続けることがきずなを紡ぐ大切な一歩です。

地域福祉コーディネーター 大矢 みはる
サロン事業等これまでの活動を応援しながら、今後も子育て支援の取り組みや、福祉活動拠点の整備等、地域の実情と課題を反映した活動の充足を目指します。

主任相談員 福澤 将平
市民や専門機関が日頃からつながり合うことで、課題や変化の生じている人に早期に気付き支援することができます。相談者も私たち自身も孤立しないよう、今後も一緒につながり支え合う地域づくりを目指しましょう。

ボランティアコーディネーター 後藤 光弘
ボランティアとは、する側される側ではなく、お互いがより良く生きることです。今後もボランティア活動や福祉教育を通して、誰もが共に歩む地域づくりを推進します。

総務課主事 柴田 智行
社協の事業は地域活動に直接的に関わるもので、取り組みを通して地域に還元されます。今後も活動

継続や拡充を図るため、自分たちで安定した財源確保に取り組みが必要があります。社協会員会費や赤い羽根共同募金等、「協力をお願いします」。

◆校区きずな計画

8小学校区ごとのきずな推進委員会の代表者より報告しました。

登別小学校区きずな推進委員会

リーダー 田畑 恒義氏

登別中学校と合同で行う「お茶の間会議」では、中学生と住民と一緒に福祉や地域のことについて学び合い、交流している。第4期の5カ年も大切に継続していきたい。

幌別東小学校区きずな推進委員会

リーダー 森 芳昭氏

日頃から住民同士の声掛け、見守り、支え合いを推進すると共に、避難訓練や地域食堂ゆめみくろでの子育て世代から高齢者までの居場所づくり等により、孤立のない地域づくりを目指したい。



幌別小学校区きずな推進委員会

サブリーダー 山崎 敏男氏

校区内の多様な関係者や社会福祉法人と連携しながら、「地域拠点丸ごと支え合い事業」や「鍵預かりサービスマスター」等をより地域に広め、学校や子どもと地域住民が関わる取り組みも考えていきたい。

幌別西小学校区きずな推進委員会

リーダー 島田 幸一氏

コロナ禍では回覧板や社協のまごころレターでつながりを維持した。第4期では高齢、障がい、子どもと市民の立場を越え、住民同士で支え合う関係性を築きながら、新たに福祉に携わる人材も発掘していきたい。

青葉小学校区きずな推進委員会

リーダー 田淵 純勝氏

第3期までの取り組みを継続しながら、地域のつながりづくりの中心に子どもや子育てを掲げていきたい。

また、日頃からの防災活動等も実施し、地域にきずな活動を広げていきたい。



富岸小学校区きずな推進委員会

リーダー 瀧川 正義氏

第4期では、これまで以上に防災・減災について重点的に取り組んでいくことを掲げている。きずな推進委員会へ町内会長に加わってもらい、連動を図っていきたい。

若草小学校区きずな推進委員会

委員 竹内 勉氏

地域でのつながりの構築・強化として、隣近所同士の声掛け見守りを進めていき、平時からのつながりを防災活動にも活かしていきたい。

鷺別小学校区きずな推進委員会

リーダー 中原 義勝氏

第1期から3期の間にサロン活動や地域拠点「じゃべっ茶お」を立ち上げてきた。第4期では地域の子育て支援として、子ども食堂の立ち上げを目指していきたい。

◆おわりに

きずな大使 鳥居 一頼氏

第4期の計画書の86ページにこう綴りました。「きずな計画は暮らしのすべての問題を解決するものではない。でも、なければ何も解決されず、迷い人は路頭に彷徨う。それは地域に漂流する高齢者を生むことになる。」

見て見ぬふりの出来る人も少なくなっている。いま他者の干渉を嫌う人が多くなっていることも事実

だ。それでもなお、捨て置けない人たちもいることも事実である。

きずな計画に関わることで、人生を豊かに耕すことができると確信する。17年もの間、多くのきずな推進委員や関わった市民の後ろ姿に見出されてきた「仁徳」そのものである。

地域や人と関わることで生まれる、自分の暮らし方や生き方が問われる。人情に厚く感謝の気持ちで、健やかに暮らししていきたい。例え病に倒れても、障がいを負っても、老いても、人との関わりの中で暮らし喜びを味わいたいと思うのは本願である。

「きずな」はほんのきっかけに過ぎないかもしれない。それでも前向きに生きていく目的と元気がもらえる。ここで暮らし生きることへの喜びを分かち合う人たちがいることがとても嬉し。それが「きずな」の本領である。これからのきずなに關わるまちづくり大いに期待しています。



運動期間 10月1日～12月31日まで

目標額 690万円

※共同募金は、社会福祉法に位置付けられた募金活動です。

赤い羽根共同募金

じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金運動がはじまります

今年も10月より赤い羽根共同募金運動がはじまります。12月までの3か月間、戸別募金をはじめ様々な方法で募金活動が行われます。



西胆振地区少年野球大会でのイベント募金の様子

赤い羽根共同募金のしくみ

赤い羽根共同募金は募金活動を開始する前に、次の年に登別市内で行う福祉活動や必要な事業の計画を立て、その計画を実現するために必要な財源を募る計画募金です。

市民の皆さんにご協力いただいた募金は、登別の福祉活動や全道規模の広域的な福祉活動等に活用されます。

さまざまな募金方法

戸別募金……町内会を通じて各家庭に寄付を呼びかけます。(封筒募金等)
街頭募金……ボランティア団体や企業等の皆さんが街頭に立ち、寄付を呼びかけます。

法人募金……企業等を訪問して寄付を呼びかけます。
篤志家募金……個人宅を訪問して寄付を呼びかけます。

職域募金……会社等の職場内で寄付を呼びかけます。
学校募金……学校内で寄付を呼びかけます。

イベント募金……各種イベントで寄付を呼びかけます。

あなたも赤い羽根の応援サポーターになりませんか？

道内には、北海道の福祉活動推進への貢献を目的とした、赤い羽根共同募金運動の応援サポーターがいます。応援サポーターの皆さんには募金活動の協力やチャリティイベントの開催を行っていただきます。

登別市内で行う活動や大会・イベント時に横断幕やのぼりを設置し、共同募金を応援していただける団体や企業を募集しています。募金箱の貸出や横断幕の作成等も本会で行いますので、まずはお気軽にお問合せください。

道内の赤い羽根応援サポーター

- ・北海道日本ハムファイターズ
- ・コンサドーレ札幌
- ・レバンガ北海道
- ・初音ミク 等

登別市少年軟式野球連盟も応援サポーターとしてご協力いただいています！



登別市限定

寄付金付きで当地バッジ完成!

赤い羽根共同募金限定のご当地バッジが今年も登場! 登別市のPRキャラクター登夢くん(とむ)と創立50周年を迎える登別商工会議所青年部(YEG)とのコラボバッジです。

デザインは今年も日本工学院北海道専門学校のご生さん(ごせいさん)にお願いしました。市内各所にて取扱いしていますので、ぜひご協力ください。

今年のデザインはこちら!

「登夢くん」と「つつじ」



最優秀賞
滝波 穂乃香さん

1個
500円

受賞作品



【社協会長賞】
磯部 祐輝さん



【優秀賞】
本田 凜さん



【アイデア賞】
加藤 紗寧さん



【共募会長賞】
武山 夢菜さん



全部で23作品のデザイン案をいただきました

日本工学院北海道専門学校CGデザイン科1年生の皆さん
ご協力ありがとうございました!



「当地バッジ取扱い場所」

- ・登別市役所内母子会売店(中央町)
- ・登別中央ショッピングセンターアーニス(中央町)
- ・登別パークサービスセンター売店(登別温泉町)
- ・登別クマ牧場(登別温泉町)
- ・登別市民会館(富士町)
- ・登別市社会福祉協議会(片倉町)

※施設により営業日、取扱時間が異なるのでご注意ください。
※お届けに伺うことも可能です。気軽にお問合せください。

※募金の取扱について

個人からの2千円を超える募金は税制上の控除対象となっており、確定申告により減税されます。また、法人・企業からの募金や寄付については優遇措置の対象となっており、その全額を損金(算入)することができま

北海道共同募金功績者感謝状伝達式

日頃より共同募金運動にご尽力いただいている団体へ北海道共同募金会より感謝状と記念品の贈呈があり、2団体へ伝達を行いました。

【令和3年度功績者】

- ・NPO法人ゆめみぐる
- ・登別聴覚障がい者協会



赤い羽根テントを助成しました!

登別社協では共同募金の財源を活用した「きずな赤い羽根テント助成事業」を実施しており、今年も中央町十字街町内会へ助成を行いました。



募金型自動販売機を設置しませんか?

商品売上の一部が募金へとつながる自動販売機は、現在市内3カ所に設置されています。皆さんの身近なところへの設置も可能です。法人・企業の皆さん、入替えや新規設置の際はぜひご相談ください。



お問合せ先

登別市共同募金委員会
電話 0143(888)0866
FAX 0143(888)4546

寄付金と会員会費が税額控除の対象になりました

登別市社会福祉協議会に対する寄付は、これまで「所得控除制度」が適用となりましたが、2022年6月1日から2027年5月31日までの5年間、「税額控除制度」が適用される社会福祉法人として登別市より認められました。

「所得控除」は、寄付者の所得に応じた税率を寄付金額に乗じて算出されますが、「税制控除」は所得税率に関係なく、所得税額から税額控除額を直接差し引くため、小口の寄付にも減税効果が高く、「所得控除」と比較してほとんどの場合、税額控除の方が、減税効果が大きくなります。

ぜひ「所得控除制度」または「税額控除制度」を活用ください。

なお、本会の会員会費も寄付と同様に控除が適用されますので、会員登録についてもご検討ください。

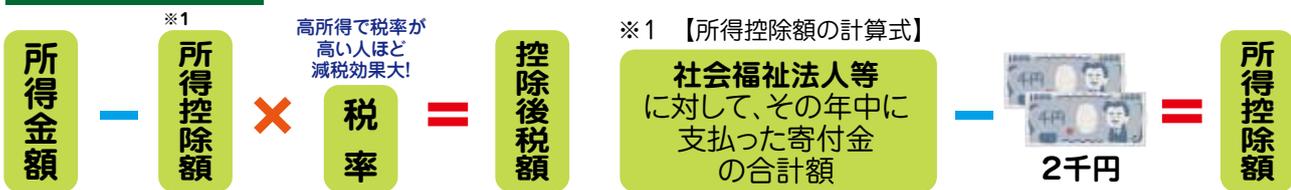
◆寄付金活用の一例

2019年、登別ライオンズクラブより創立60周年を記念していただいた寄付を活用し、きずな活動の普及啓発と地域活動を応援するため、見守り活動時に着用できるユニフォームを作成しました。

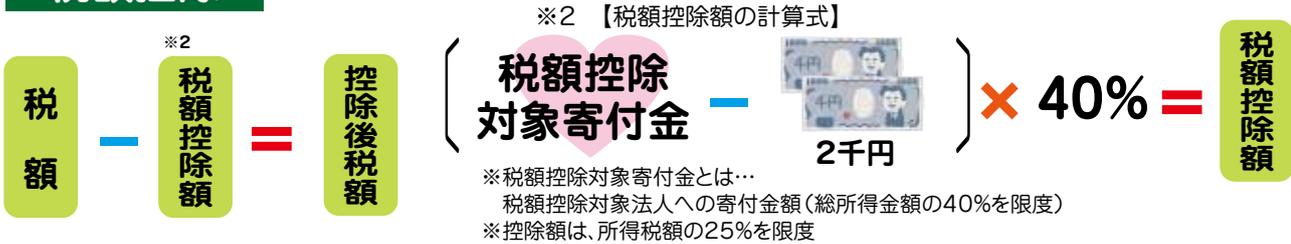
市内30団体に348枚を提供し、現在も登下校時の子どもが見守り活動や、町内会活動の際に活用されています。



所得控除



税額控除



寄付者のご紹介 (2022年4月1日～2022年7月31日)

(敬称略/単位:円)

受領年月日	寄付者名	寄付金額	寄付目的
2022.04.12	NPO法人 ゆめみ～る	11,000	社会福祉のために
2022.04.22	金子久子	10,000	社会福祉のために
2022.05.20	わしこうD愛好会	10,000	ダンスパーティーの益金の一部を社会福祉のために
2022.06.22	秋桜仲良しの会	10,000	ダンスパーティーの益金の一部を社会福祉のために
2022.06.27	障がい児親子の会 ぽぽくらぶ	146,000	同会解散にあたり残余金を子育て関連事業のために
2022.06.27	匿名	5,000	社会福祉のために
2022.06.30	匿名	130,100	社会福祉のために
2022.06.22	匿名	3,114	会議での費用弁償を社会福祉のために

愛の小箱等設置協力者のご紹介 (2022年4月1日～2022年7月31日)

(敬称略/単位:円)

受領年月日	設置協力者名	寄付金額	種別
2022.04.01	ふれあいの店	716	愛の小箱
2022.04.12	登別中央ショッピングセンター アーニス	1,000	ガチャガチャ
2022.04.28	登別中央ショッピングセンター アーニス	300	ガチャガチャ
2022.05.24	ヘアーハウスコバヤシ	2,193	愛の小箱
2022.05.27	登別中央ショッピングセンター アーニス	900	ガチャガチャ
2022.07.04	登別中央ショッピングセンター アーニス	1,000	ガチャガチャ

福祉の魅力を発信 きずなインフルエンサー

登別社協では、これまでつながるきっかけが少なかった若い世代や学生等にも、福祉や地域活動を身近に感じてもらうことを目指して、福祉の魅力を一緒に発信していく「若い世代を「きずなインフルエンサー」として募集しました。



今回、市内高校に通う2名がメンバーとして活動することになりました。

登別青嶺高等学校

3年生 三浦 真姫さん(写真右)

「お年寄りが好きなので、介護関係の仕事を目指しています。この事業を通して福祉の魅力を広められるよう頑張ります」

登別明白中等教育学校

5年生 谷口 陽紀さん(写真左)

「福祉の仕事に興味があり応募しました。福祉活動のリアルを知り、あまり興味がないという人にも身近に感じられるよう発信していきたいです」

今後福祉施設や地域のボランティア活動を見学しながら取材し、広報誌やSNSを通して発信していく予定です。

きずなのまじびと

このコーナーでは、地域で精力的に活動されている方のきずな活動に対する想いや、これからの活動の展望などをお伝えします。

今回は、富岸小学校区きずな推進委員会リーダーの瀧川 正義さんにお話を伺いました。

「経験を活かし、地域のこれからのために」

富岸小学校区きずな推進委員会リーダー

瀧川 正義さん(新生町)



コンピューター関係の仕事をしてきた20代後半の頃、会社内の自治会に参加し、福祉担当として幼稚園の経営に携わったことが福祉活動の最初のきっかけでした。その後も仕事と両立しながらPTA活動等に携わる生活を続け、退職を機に町内会活動や民生委員活動にも関わることとなりました。

会社で防災関連の業務に携わっていた経験を活かし、町内会における自主防災計画書作成の中心を担いました。参考にした国や道の計画書はどれも分厚く、住民が読んで理解するには難しいものでした。活用できるものとするためには、小学生から高齢者まで誰が見ても理解できることが必要だと感じました。

そこで、15ページ程にまとめたシンプルな計

「まちびとには、登別のまちの人、問題と人をマッチングさせる人、布の長さを補うまちのよう」に地域を補う人という意味が込められています

画書を作り、それに基づいて行う町内会の避難訓練では、様々な災害を想定し住民同士の動きを確認し合っています。印象的だったのは、最近越してきた方から「これほど充実した防災活動は見たことがない。ここに引越して来てよかった」と言っていたことです。嬉しかったと同時に、さらに努力してより良いものにしていき、市全体にも広げていきたいと感じました。そのためには、自分も地域も災害について学びを深め、地域性に合った防災活動を考える必要があると思います。

昨年度は第4期きずな計画策定のプロジェクトメンバーとして、第3期きずな計画策定時にアンケート調査分析等で携わった経験を活かしながら参画しました。より良い地域福祉実践計画となるよう話し合いを重ねる時間は会社時代を思い起こさせ、年齢を重ねてもやる気の湧くものでした。

完成した第4期きずな計画に基づいた活動を実践していくため、少しでも多くの市民に理解と参画をもらいながら、「福祉のまち登別」の実現を目指して力を合わせていきたいです。市民みんなで協力し合い、支え合っていきたいと思います。

災害に強い地域へ、日頃がらいつながりつつながりつつと備えを

総合防災訓練を通し、互いの理解を深めて

7月30日、幌別西地区を対象にした登別市総合防災訓練が行われました。

登別社協は登別市障害者福祉関係団体連絡協議会（以下、障団連）に加盟している幌別西地区にお住いの障がい当事者の方々が参加するにあたり、周辺住民にもこういった方が身近に暮らしているのか、それぞれの障がいの特徴等も知ってもらうきっかけとなるよう、災害時の避難方法を一緒に確認し合う場を市とも調整しながら設けました。

7月22日に行った打ち合わせでは、当日参加する聴覚障がい、視覚障がい、肢体不自由の3名の当事者の方々、周辺に住む住民の方々、障団連事務局、市の総務グループ防災担当、障がい福祉グループが集まり、顔合わせを行いました。

当事者の方からは障がいがあっても仕事をしたり、住み慣れた自宅では家事もできること等、普段の暮らしの様子を伝えてもらうと同時に、自身では難しいため手伝ってもらおうと助かることもそれぞれ話してもらいました。聴覚障がいの方からは、「音で異変に気付くことができないので、避難が必要な際には紙に書いたり、ジェスチャーで教えてほしい」といった話や、視覚障がいの方からは



「知らない場所はわからないので、ガイドヘルプでサポートしてもらえると助かる」といった声があり、住民と避難方法を確認しながら、普段の暮らしの様子についても学び合いました。

訓練当日、障がい当事者の方の自宅前に住民が集まり、避難先となった市民会館へグループごとに移動しました。車いすでの介助が必要な脳性麻痺の子さんを持つ方からは、

「一緒に避難してくれた住民の皆さんが、声掛けや道路のへこみを気にしながら誘導してくれたおかげで、スムーズに移動できた」との声が聞かれました。

参加した住民からも、「障がい当事者の方と一緒に避難してみても、自分たちも学びが多かった。今後同じ町内会の方々と、もしもに備えみんなで共有していきたい」、「障がいのあるなただけでなく、高齢な方等、地域には災害時にちょっとした手助けが必要な方がたくさんいるのではないかと改めて感じた。支え合いの方法について、考えていきたいと思った」といった前向きな声も聞かれました。

登別社協では、小地域ネットワーク活動等を通じた日頃からのつながりづくりや、近隣住民同士が支え合うことのできる温かな関係性が生まれるよう、今後も地域活動を推進します。



Pick up

災害ボランティアセンターの協定締結

6月22日、災害ボランティアセンターの設置及び運営に関して、市との協定締結を行いました。

これにより登別市内で大規模災害が発生した際には、必要に応じて市が災害ボランティアセンターを立ち上げ、社協が運営を行うこととなりました。



災害ボランティアセンターとは
災害時に開設するボランティア活動本部で、道内外から集まったボランティアアスリートと、必要としている場所や人をつなげる調整等を行う。

